

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591600139		
法人名	医療法人社団 早川内科医院		
事業所名	グループホーム いつは		
所在地	山口県山陽小野田市住吉本町二丁目7番20号		
自己評価作成日	平成28年2月24日	評価結果市町受理日	平成28年6月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成28年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が、自分らしさを失わず、より心豊かな生活を送ることができるよう支援させていただいてます。人はやりたいこと、行きたいところ、会いたい人、好きなことなどがあって初めて心が動き、自分から行動を起こします。利用者様本人やご家族様より生活歴を聞き出し、可能な限り利用者様の希望、要望をかなえて差し上げることができるようにと考え、努めています。 今年の6月より『認知症カフェ』の開催に向けて準備を進めています。施設に入所している利用者様がくつろぎ、社会との接点を持つ場となれるよう、また地域の方が認知症の人と出会い、会話をすることにより、認知症が決して特別な病気ではないということを理解できる場ともなれるようにと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自治会に加入され、地域の住吉まつりでは事業所の駐車場を会場として提供され、利用者と職員が一緒にバザーの出店をされたり、介護相談コーナーを設けられて、地域の人と交流されています。地区の避難訓練には管理者が参加しておられる他、隣接する地位の施設「龍遊館」で週1回住民の方が開催される「100歳体操」に利用者も参加して交流しておられます。運営推進会議のメンバーに新たに民生委員と福祉委員を加えられ、消防署員から避難時の利用者の見守り方法についての助言を得て、一緒に避難訓練に参加しておられる他、会議を「龍遊館」で開催され「認知症カフェ」の開催を行政や地域の人と共に検討されるなど、事業所内にとどまらず地域の一員として高齢者の交流の場を広げる取り組みをしておられます。職員は、入浴の支援時などを活用して、笑顔でゆっくりと利用者の話を聞いておられ、利用者一人ひとりに寄り添った支援に努めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を事業所の理念として、毎朝申し送り時に唱和している。職員全員で理念を共有し実践につなげています	法人の理念を事業所の理念として、職員は朝の申し送り時に唱和している。どうすれば理念を実現できるか検討し、市や地域の人と協力して、隣接する地域の施設（龍遊館）での認知症カフェの開催に向けて取り組むなど、理念の実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年5月に開催される『住吉まつり』に参加しており、バザー等を出店している。また龍遊館で行われている『100歳体操』に利用者様と共に参加している。6月より龍遊館を利用して、市と地域住民のの協力を得て『認知症カフェ』を開催する予定です	自治会に加入している。地域の祭り(住吉まつり)では、事業所の駐車場を会場として提供し、利用者と職員が一緒にバザーの出店をしたり、介護相談コーナーを設けて、地域の人と交流している。地区の避難訓練に管理者が参加している。週1回、隣接の地域の施設（龍遊館）で開催している「100歳体操」に利用者が参加し、地域の人と交流している。中学生の体験学習を受け入れている他、ハーモニカやフラダンスのボランティアの来訪がある。運営推進会議を隣接の地域の施設（龍遊館）で開催し、認知症カフェの開催を検討するなど、地域の一員として交流する場を広げる取り組みをしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加していただいています、自治会長や民生委員、福祉委員を通じて認知症の理解と支援の協力をお願いしています。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	ミーティングや職員間の申し送りを利用して、全職員に外部評価を受ける意義を理解してもらっている。評価を受けてより今行っている自分たちのケアが更に良いものとなっているよう努めています。この実践状況の記入にあたっては、皆で考え、まとめたものを記入しております。	自己評価は全職員にガイド集を回覧し、自己評価をするための書類を配布して記入してもらい、管理者がまとめている。全職員が評価項目を十分に理解しているとは言えない。前回の評価結果を活かして、運営推進会議に新たに民生委員と福祉委員をメンバーに加えるなど、具体的な改善に取り組んでいる。	・項目の理解	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月の利用状況や利用者様の生活の様子を報告しています。市が開催している研修会にともに出席し、運営推進会議を利用して再度研修会で勉強したことを話し合うこともあります。外部評価で出された課題も報告し、解決に向けて話し合いをおこなっています	新たに民生委員と福祉委員をメンバーに加え、会議を2ヶ月に1回開催している。利用者状況、職員研修、外部評価結果などの報告をし、避難訓練や認知症カフェの開催などについて話し合っている。消防署員から避難時の利用者の見守り方法についての助言を得て、メンバーと一緒に訓練を実施したり、住吉まつりでの地域と利用者の交流についてなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より密に連絡・相談を行い、助言や指導をいただいています。運営推進会議にも参加していただいています。今年の6月より、市と協力して『認知症カフェ』を開催予定です	市担当者とは運営推進会議の他、市主催の研修会参加時に相談や情報交換をしている他、出向いたり電話で相談し、助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは利用者への対応や認知症カフェの開催についての相談や情報交換をするなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時に事例検討を行い、身体拘束とはスピーチロック、ドアの施錠も拘束になるということを勉強し、身体拘束をしないケアを職員全員で行っています	管理者がミーティングで身体拘束について説明し、資料を回覧している他、日常業務の中で指導してスピーチロックやドラッグロックのないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はせず、外出したい利用者とは職員が一緒に出かけている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞やテレビ等で虐待のニュースが出た際には、その都度全職員に伝え、なぜ虐待となってしまったのか、防ぐことは出来なかったのかを皆で考えています。また夜勤業務は1人で行うということで、大変さを皆で共有し、一人で悩むことがないように配慮しています		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在2名の利用者様が『成年後見制度』を利用されています。職員全員で制度の必要性を理解しています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様・家族様に理解、納得していただくことができますよう、丁寧に説明させていただいています。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情に対する『窓口』を設置しております。またご家族様来苑時や、毎月の請求書とともに発送する手紙の中に、「何かご意見、ご要望がありましたら遠慮なくお知らせくださいませ」とお伝えしています。問題があった際には速やかな対応を心掛けています	契約時に相談や苦情の受付体制、第三者委員、処理手続きについて家族に説明している。面会時に管理者や職員が声をかけて聞いたり、運営推進会議参加時や電話等で家族からの意見を聞いている。毎月の請求書送付時に利用者の日頃の様子を写真等で伝え、要望を言いやすいよう工夫している。ケアに対する要望にすぐに対応するよう努めている。運営に反映させるまでの意見や要望は出していない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見は必ず管理者、施設長へ報告しています。必要であれば1回／2ヶ月 行われる主任・管理者会議に職員からの要望を話し合い、職場環境の改善に努めています	月1回の職員会議や朝の申し送りなどで職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、管理者が日頃から声をかけて意見を言いやすい雰囲気をつくっている。職員からの提案で、利用者の状態に合わせたリクライニング車いすを導入するなど、意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回、職員自らの努力目標を所定の用紙に記入してもらい、毎月目標の達成状況を記入してもらい、管理者、代表者が確認、把握しています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の経験年数や力量に応じた法人内外の研修を行っています。また自ら向上心を持ち、ケアのレベルアップを望んでいる職員に対し、様々な研修案内を配布し、参加を呼び掛けている	外部研修は、資料を掲示したり回覧して、職員に情報を伝え、段階に応じて新人研修や中堅職員研修、実践者研修、グループホーム職員研修などに勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命報告書を回覧して情報を共有している。内部研修は、月1回の職員会議時に施設長を講師として、リスクマネジメント、スピーチロック、緊急時の対応、脱水症、誤嚥、店頭、排泄ケア、食事ケア、プライバシー保護、ターミナルケアなどについて年間計画を作成して実施している。新人は法人研修受講後、2ヶ月間、管理者や先輩職員が指導し、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネ連絡協議会に参加しています。役員を引き受け、定期的に行われる会議や、研修会を通して他の施設職員との情報交換を行い、自らの施設のサービスの向上に役立っています		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には家族様、本人様と何度も面談し、出来るだけ詳しく生活歴を聞き出せるようにしています。また本人様が不安と感じていることや要望を聞き、安心して生活していただくことができますよう努めています		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けてから入居されるまでの間、家族様の不安と感じている点や、悩んでいること、困っていることに十分耳を傾け、納得、安心していただくことができますよう丁寧に対応させていただいてます		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様の思いや、困っていることをしっかりと聞き取り、必要に応じて他の施設や、事業所等の説明を行い、本院様、家族様に自ら選択していただくことができますよう支援しています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は行っていただいています。時には人生の先輩として、生活の知恵等、助言を頂くこともあります		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月請求書とともに送付する手紙や、必要であれば電話で本人様のご様子を細目に伝えています。家族様と連絡を取りながら、本人様が心穏やかに生活して下さることが出来ますよう努めています		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は自由に行っていただいています。また外出、外泊も自由に行っていただいています。日頃より本人様に行きたいところはないか、会いたい人はいないかを聞き、家族様とも相談しながら極力叶えて差し上げることが出来ますよう努めています	家族の面会や親せきの人、近所の人、前のケアマネージャーなどの来訪がある他、電話や年賀状での交流を支援している。家族の協力を得て、馴染みの店での買い物や美容院の利用、親類宅の訪問、墓参り、葬儀や法事への参加、正月の親族の集まりへの外泊など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援にしている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様のその日の体調や、また職員の対応法によっても利用者様間の関係は日々変わっています。一人ひとりの利用者様をよく見て、一番良い状態となれるよう支援しています		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、家族様の要望や相談事があれば応じています。家族様の支えとなりますよう努めています		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者を主としてご利用者様の要望を聞き取るようにしています。家族様とも相談しながら、本人様が一番良い状態で生活することができますよう努めています	入居時のアセスメントを活用している他、日々の関わりの中で利用者の言葉や行動、その時の状況などを介護記録に記録しフェイスシートなどにまとめて、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族から情報を得て、職員間で話し合い、本人本位に検討している。全職員が利用者一人ひとりの思いや意向を共有するまでには至っていない。	・思いや意向の共有の工夫
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様、本人様より生活歴を聞き取り、他の職員とも情報を共有し、個々のサービスに取り込んでいます		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック表で心身状態を確認し、本人様の発する言葉、行動、顔の表情などをよく観察し、一人ひとりの現状の把握に努めています		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の現状をよく把握してより、家族様、必要な関係者と話し合い、介護計画書を作成しています。また定期的にカンファレンスを開き現状に即した計画書となるよう努めています	月1回施設長と管理者、利用者を担当する職員が中心となってカンファレンスを開催し、本人の思いや家族の意向、主治医や看護師等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。月1回、利用者を担当する職員がモニタリングを行い、6ヶ月毎に見直しをしている他、利用者の状態の変化や要望に応じて見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケア記録や、職員間の申し送り簿、毎朝のカンファレンスにて職員間で情報を把握・共有し、上司や関係者と相談、助言を得ながら介護計画書の見直しを行っています		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所前よりの利用者様の持病による受診は、基本ご家族様にお願いしていますが、ご家族様が都合のつかない時は職員にて対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で開催される『住吉まつり』に毎年参加しています。今年の6月より隣接している『龍遊館』を利用して、『認知症カフェ』を開催する予定です。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族様の希望するかかりつけ医となっています。主治医を主として地域医療とも連携を図り、利用者様の健康管理に努めています。また体調不良時には適切な医療を受けることができますよう努めています	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を家族の協力を得て支援している。協力医療機関をかかりつけ医としている利用者には月2回の訪問診療がある他、週1回、歯科の訪問診療がある。受診結果は介護記録や申し送りノートに記録して職員間で共有し、家族には電話で伝えている。緊急時には協力医療機関と連携して適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に利用者様の体調の変化に配慮し、体調の変化が見られる時には速やかに看護師に報告、相談を行いながら適切な医療へとつなぐことができますよう支援しています		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より他の施設や、医療施設の地域連携と情報交換を行っております。利用者様が入院された際には更に情報交換を密に行い、利用者様、そして家族様にも安心して治療を行っていただき、早期に退院できますよう努めています		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に『利用者様の重度化及び看取り介護に関する指針』に沿って説明を行っております。医師の診断にて終末期に入ったという診断がなされた際には、グループホームで介護職が出来る事を家族様に説明し、医師、看護師、そして家族様と連携を取りながら支援に取り組んでおります	契約時に「重度化及び看取り介護に関する指針」に基づいて事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から主治医と家族が話し合い、職員が家族の意向を確認しながら、主治医の指示の下、看取りや他施設への移設など、方針を共有して支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	毎月行っている職員会議や、毎朝の申し送り時に研修・確認をおこなっています。職員の交代もあるため、事故を未然に防ぐことができますよう繰り返し研修を行っています。また利用者様一人ひとりの状態もよく把握し、その時々状態に応じた予防策を実施しています	事例が生じた場合はその日の職員で話し合い、インシデントレポートや事故報告書に記録して回覧し、全職員の意見を記入している他、利用者を担当する職員が対応策を検討し、申し送りノートで共有し、介護計画に反映させて、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。内部研修で年7回、緊急時の対応、脱水症、誤嚥、高熱時の対応、胸痛、転倒骨折、異食についての訓練を実施しているが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるにはいたっていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練・職員の緊急連絡網訓練を定期的に行っています。運営推進会議にて消防職員より『いつは』での利用者様の安全な避難方法を勉強し実際に行ってみました。また地域の自治会長や民生委員と協力体制について話し合いを重ねています	年2回、拠点事業所合同で昼夜を想定した消火、通報、避難誘導訓練を実施している。運営推進会議で消防署員の助言を得て、メンバーと一緒に避難時の利用者の見守りについて訓練している。地区の避難訓練に管理者が参加している。地域との協力体制について自治会長と話し合っているが、協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制を築く取り組みの継続
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の言動を否定しない。常に丁寧な言葉かけや丁寧な対応を心掛けるようにしています。職員の都合ではなく利用者様の思いを優先するように心掛けています	内部研修で接遇について学び、職員は人格の尊重とプライバシーの確保について理解している。利用者を否定しない言葉かけや対応をし、トイレや入浴時のプライバシーの確保や入室時のドアノックなどを心がけている。気になることがあれば管理者が職員会議で指導している。守秘義務について理解し、個人情報の取扱いに注意している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	寝たきりに近い人、また認知症が進み意思の疎通の難しい方が多くなりましたが、本人様にわかる方法を考え、本人様の思いを叶えて差し上げることが出来ますよう努めています		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の時間ペースでなく、常に利用者様の意思を尊重し、利用者が心穏やかに生活することができますよう努めています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の担当者が主となり、季節に合った衣類の整理を行っています。また服のほころびやボタン取れは修理し、常にきちんとした衣類を身に付けていただくことができますよう配慮しています		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食にパン食を好まれる方には、好みのパン・ジャム・飲み物を用意しています。食事の形態を食べやすいように整え自分で食べていただく。利用者様の好まれるおやつを手作りする。副食の盛り付けやトレー拭きを職員と共にしています	三食とも法人の厨房からの配食を利用し、炊飯と温めは事業所で行って、利用者の状態に合わせた形状で提供している。利用者は台拭き、ランチョンマット拭き、トレー拭き、副食の盛付けなどできることを職員と一緒にしている。季節の行事食(節分、ひな祭り、母の日、父の日、敬老会、クリスマス会など)やおやつづくり(桜餅、ぜんざいなど)、家族の協力を得ての外出など、食事を楽しむことができるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量を毎回チェックし記録に残しています。利用者様一人ひとりの状態を把握し、必要に応じて高カロリー栄養ドリンクも使用しています。医師・家族様と相談しながら利用者様の体調管理に努めています		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず行っています。特に寝たきりの方の口腔内はよく観察し、常にきれいな状態を保てるよう努めています。歯科医師とも連携し支持を得ながら支援しています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて各利用者様の排泄パターンを確認しています。定時のトイレ誘導を行いながら、不要な紙パンツ・パッドを使用することのないよう努めています	排泄チェック表を活用し、パターンを把握して、習慣を活かして一人ひとりに合わせた声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便の有無を毎日確認しています。排泄困難な方には1日の水分量は足りているのか、食事量はどうか、活動量はどうかのチェックを行い、状態によっては腹部を温める、マッサージなどを行っています		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日行っています。利用者様一人ひとりに声掛けを行い、納得されてより入浴していただいています。入浴剤や、季節行事の『ゆず湯』なども用意し、楽しんで入っていただくことができますよう配慮しています	入浴は毎日、10時から12時までの間可能で、利用者の希望や体調に合わせて、2日に1回から1週間に1回、職員と会話を楽しみながらゆっくりと入浴を楽しめるよう支援している。好みに合わせて入浴剤を使用したり、季節のゆず湯やバラ湯を楽しんでいる。入浴したくない人には、タイミングを計ったり、職員の交代、言葉かけなどの工夫をしている。状態に合わせて足浴や清拭、シャワー浴など一人ひとりに応じた支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の意思にて入床していただいています。テレビを観たい方や、まだ眠くない方には飲み物などを用意してフロア内でくつろいでいただいています。居室内も安眠できるよう温度調整や灯りの調整をしています		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様が使用している薬は全職員にて把握しています。定期薬の変更や臨時薬が処方された際には効能と副作用を確認し、利用者様に変化があった際にはすぐに医師へ報告しています。現在服用されている薬も、このまま継続して服用した方が良いものなのか、見直しもしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	色々な事が出来なくなってきましたが、歌うこととお話は皆様好きなので、天気の良い日は散歩をしながら話を楽しみ、天候の良い日は皆で懐かしい歌を歌って楽しんでいます。また体調の良い日は近隣までのドライブや日用品の買い物を行っています。季節の行事も行っています。	季節の行事(母の日、父の日、夏祭り、敬老会、クリスマス会)、誕生日会、テレビ視聴、新聞を読む、歌を歌う、きよしのズンドコ節体操、ラジオ体操、口腔体操、リハビリ体操、100歳体操、365歩のマーチ体操、炭坑節、運動会、紐引きゲーム、風船バレー、玉入れ、パランスゲーム、棒崩し、しりとり、カルタ、壁面飾り工作、ぬり絵、折り紙、ボランティア(大正琴、ハーモニカ演奏、フラダンスなど)の来訪、洗濯物干し、洗濯物たたみ、フロアや居室の掃除、テーブル拭き、ランチョンマット拭き、盛付けなど、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	殆どの方が車椅子、または何らかの歩行介助が必要なため、外出することが困難となってきましたが、家族様と相談・協力を得て、出かけることができますよう支援しています	花見(桜)、住吉神社夏祭り、龍遊館の100歳体操や喫茶店利用、法人の夏祭り、外気浴や散歩、家族の協力を得て、馴染みの店での買い物や美容院の利用、親類宅の訪問、墓参り、葬儀や法事への参加、正月の親族の集まりの外泊など、戸外に出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日頃は施設にて預かっていますが、家族様と外出される時にはお渡しし、苑へ戻られてより財布の中身を家族様と確認しております		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が望まれれば、いつでも自由に電話を利用していただいています。また正月には本人様より家族へ年賀状を書いてもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は、足音や業務を行う上での話し声の大きさに気を配り、利用者様にとって雑音とにならないよう気をつけています。また利用者様の居室やフロアは常に快適な空間となるよう、室内温度の設定、換気、臭いに気を配り、居心地の良い空間となるよう配慮しています	窓からは陽ざしが差し込み、明るく広々とした共用空間の壁面には季節の飾り物を飾っている。ソファや昼寝用のベットを配置し、畳のコーナーのテレビを楽しんでいるなど、利用者が思い思いにくつろげるよう工夫している。対面式の台所からはご飯の炊ける匂いがして生活感がある。温度や湿度、換気などに配慮し、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の様子を見ながら、常にテーブルやソファの移動を行い、居心地の良い場所を作ることができるよう努めています		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の使い馴染んだものや、愛着のあるものを持ち込んで下さるよう家族様にお願いしています。	ベット、箆笥、小箆笥、椅子、テレビ、テレビ台、時計、クッション、日用品などの使い慣れたものを持ち込み、家族の写真や孫の写真、誕生日会の色紙などを飾って、本人が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の動線に注意し、危険な箇所はないか、歩行に支障となるものがないかをチェックしています。利用者様の出来る事を見極め、あまり手を出しすぎることのないように務めています		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームいつは

作成日：平成 28 年 6 月 9 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	全職員が評価項目を理解する	全職員が問われていることを理解でき、施設利用者様の介護・ケアをさせていただく際に、何が大切なのかを理解することが出来るようになる	毎月のミーティング時に項目を1つずつ取り上げ、問われていることは何か、改善すべき点はどこなのかを全職員で考えていく	1年
2	24	思いや意向の共有の工夫	全職員が利用者様の思いや意向を理解し、利用者様が心穏やかに『いつは』で生活することが出来ますよう努める	利用者様担当の職員が主となり、本人様や家族様より『いつは』に入所されるまでの生活歴、仕事、趣味活動、日課として行っていた事、友人、知人、好まれる飲食物等を聞き取る。担当者にて詳細なフェイスシートを作成し確実に全職員が目を通すことが出来るようにする。また思いや意向は変化していくと思われるので、その都度変更していき、再度全職員が目を通す	1年
3	35	全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続	全職員が利用者様の体調の変化や事故等に遭遇した際、あわてずに対応できるようになる	毎月のミーティング時に繰り返し研修を行なっていく。また利用者様の体調の変化に合わせ、今、職員の出来る事は何か、また医療につなげるために介護職員が理解、把握しておかなければいけないことは何か等を業務を行う中で皆で考えていく	1年
4	36	地域との協力体制を築く取り組みの継続	災害が起こった際、地域住民の力を借りて、速やかに利用者様を安全に避難させることが出来るよう協力体制を築く	緊急連絡網に自治会長、隣接している『龍遊館館長』に入っていただく。運営推進会議などを利用し、起こりうる色々な災害を想定し、その対応法をともに考える。時には消防職員にも会議に参加していただき、安全な避難方法を勉強する	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。